

○小中学校統廃合審議会による「小矢部市のこれからの学校教育のあり方及び
小中学校の望ましい規模・配置等についての答申（案）」に対する市民意見への対応

※Ｐ〇〇の表示は、答申（案）のページを示しています。

No.	ご意見	答申案における考え方	対応
1	① 地区住民との問題が大きくあるかと思いますが、子どもの健全な教育、よりよい教育を第一に考えると小中学校ともこの案に賛成であり早期に行ってほしいと思います。	再編の時期については、P24に記載のとおり、それぞれ、次のとおりとしています。 ・ 東部小学校を石動小学校へ統合する時期については、東部小学校の児童数の減少がここ数年で更に進み、望ましい学級人数を確保するため、早期に実施することが望ましい。 ・ 蟹谷小学校と津沢小学校との統合時期については、蟹谷中学校と津沢中学校との統合を先行して行った後、速やかに実施することが望ましい。 ・ 蟹谷中学校と津沢中学校との統合時期については、蟹谷小学校と津沢小学校との統合よりも先行して行うことが望ましく、津沢中学校が全学年単級となる前に実施することが望ましい。 また、統合の実施にあたっては、「地区住民への丁寧な説明により、理解を得て進めること、また、合同授業等により、児童生徒の融和、不安感の解消などの方策を経て、円滑な再編となるよう配慮することが必要」としたところです。	・ 答申案どおり
2	① 自分が子供であれば、同級生の人数が多い方が楽しいと思う。	・ 当審議会では、望ましい学校規模については、例えば、教育環境面において「学級活動や運動会などの学校行事において、一定の集団活動が確保される規模」を望ましいとしました。 また、「人間関係の固定化等が生じないよう、クラス替えできる規模」が望ましいとし、小学校は1学年2学級以上、学校全体で18学級以下、中学校でも1学年2学級以上を維持できる規模が望ましく、更には、小中学校共に1学級当たり20人から30人程度が望ましいとしたところです。	・ 答申案どおり
3	① 私は、近い将来に小学校入学を控えている子の保護者です。 事前に、小中学校統廃合の事前アンケートが届いたので答えました。 又、私は先輩のフェイスブックでの告知で知り小中学校統廃合会議にも出席させて頂きました。 会議の印象は、対象世代の保護者が私以外いなかったのが大変残念でした。 何かしらの工夫が必要だと感じました。	・ 8～9月に実施しました保護者意見交換会・地区意見交換会については、保護者全員への案内文の配布や市報、ホームページ、ケーブルテレビなどで周知を図ったところですが、結果的に、多くの保護者の皆さんにご出席いただけなかったことを、当審議会としてもとても残念に思っています。 更に、どのような工夫があればよかったのか、検証が必要と考えています。	・ 答申案どおり
	② 又、会議に対象となる生徒に何人か出席して貰えたら更に内容が濃い良い会議になったのかなと感じました。	・ 生徒の考えや思いを汲み取ることについては、ご提案の方法も含め、貴重な提案と受け止めさせていただきます。	
	③ 富山県内の小中学校が統廃合をしている中で生徒数が減少している小矢部市は、いつ統廃合の結論を出し、実行するのかという不安がありましたので答申案ができて安心しました。	・ 今回の市民意見募集を経て、できるだけ早く、当審議会からの答申を市長へ提出したいと考えています。	
	④ 結論に関しては、賛否両論はあると思いますが、定義づけから始まり、統廃合迄の期限を決めて取り組む進め方には賛成です。		
	⑤ 色々問題がありますが統廃合の機会を活かして、愛郷心が育つ、魅力のある学校づくりを目指して頂きたいと思います。	・ P2に記載のとおり、これからの学校教育のあり方において、小矢部市教育大綱に基づき「人のかかわりやふるさと小矢部を大切にしながら、国際化、情報化等の社会変化に対応できる「生きる力」を育む教育」を基本方針として、各学校教育施策の推進が図られることが適切としたところです。	
	⑥ パブリックコメントは良い手法だと思います。	・ より多く市民の皆さんのご意見を伺うという観点から、今回、パブリックコメントを実施しました。 ご意見を寄せていただき、ありがとうございました。	

4	①	児童数も減るので、小学校中学校の統廃合には賛成。		・答申案どおり
	②	スクールバスが利用できることが必須。	・通学距離・通学時間に関しては、P27に記載のとおり、「再編によって、通学距離が遠くなる校区は、通学時間（バス乗車時間を含む）が長くなるよう、小型バスの活用も含めた通学バスの増車等、適切な通学手段を確保されるべき」とし、更に「徒歩通学の通学路の変更や自転車通学の経路が変更となる場合も生じることから、通学路の安全対策について、関係機関との連携により、十分な配慮と対策を講じる必要がある」としたところです。	
	③	また、小学生の学童への受け入れ体制が充実すれば、仕事をしている親にとってもとても助かると思う。	・放課後児童クラブについては、再編の実施の際に、当然、市においてしっかりと配慮されるべきものと考えます。	
5	①	小学生が経験できる集団生活は小学校のみだと思います。 なので小学校は集団であるべきと考え、統廃合には賛成、応援します。		・答申案どおり
6	①	石動小卒業生ですが学校が新しくなり昔の面影は無くなりましたが、少子化は問題でやむを得ないですが、石動という名を残していただきたい！	・東部小学校を石動小学校へ統合する案において、校名等については、P25に記載のとおり、校舎及び校名等ともに現石動小学校を利用することとしています。	・答申案どおり
	②	ただ統合決まってからでも耐震強度してからでもよかったのでは？	・当時、石動小学校・東部小学校共に耐震性を備えていなかったことから、市では、当時在籍の児童の安全を最優先し、いつ発生するか分からない大地震に備えるため、喫緊の課題として耐震対策を実施されたとのこと。	
	③	あとは壊すのか再利用はあるのでしょうか？	・再編により学校施設でなくなる校舎・体育館・グラウンド等の諸施設については、P27に記載のとおり、「解体だけでなく、防災・社会教育・市民スポーツ等の観点からの役割・活用も含めて、そのあり方を総合的に検討し、早期にその方向性を示すことが必要」としたところです。 なお、検討対象施設として、答申案には「校舎が」記載されていませんので、「校舎」を追記することとします。	
7	①	石動小学校のPTA役員です。 答申を見る限り、現石動小学校の児童に関しては、大きな変化はないと感じました。（校名等は変わる可能性もあるとのことですが） しかし、東部小学校の児童・保護者・地域の方々の心情はどのようなものなのか気になります。 学校が変わることで、これまでの人間関係、通学路、行事等、様々なことが大きく変わります。 東部小学校の関係者の方々の心情を十分に理解し、統合に納得していただいた上での統合が望ましいと感じました。 実施時期は早期に実施することが望ましいとのことですが、説明会や意見交換会を十分に行い、多くの関係者が納得した上での実施を願っています。	・東部小学校と石動小学校への統合時期については、東部小学校が、近い将来、望ましい学級人数を確保できなくなると見込まれることから、「早期」に実施することが望ましいとしたところです。 なお、実施にあたっては、P24に記載のとおり、「地区住民への丁寧な説明により、理解を得て進めること、また、合同授業等により、児童相互の融和、不安感の解消などの方策を経て、円滑な再編となるよう配慮することが必要」としています。	・答申案どおり
8	①	津沢地区に住んでいます。 蟹谷地区との統廃合に賛成です。		・答申案どおり
	②	まずは中学校からではなく、小中同時統廃合を希望します。	・当審議会の協議の過程では、小学校よりも中学校のほうが、単級状態を解消する緊急性が高いとの判断となりました。 統合を小・中同時に行うことは、その準備等において困難が伴うことも踏まえ、「蟹谷中学校と津沢中学校との統合を先行して行い、その後、蟹谷小学校と津沢小学校との統合を速やかに実施すること」としたものです。	
	③	津沢への統合を希望します。	・また、再編後の小学校校舎の位置については、「統合が行いやすいよう、いずれかの校舎を利用することとし、校名は新規に制定」としたところです。 今後、両地域の住民の方々や関係者の協議が進められ、津沢・蟹谷両地域全体の視野に立ち、両地域の合意のものと確かな選択が為されることを期待するものであり、ご提案の方法も、その際、検討されるものと考えます。	

8		<p>なお、P 26 に記載のとおり、「校舎が、次の大規模改修が必要となる時期に、両地区のほぼ中間での新設も含めて、再検討することが適切」としたところで。</p>	
9	<p>① 津沢在住です。答申（案）は、基本賛成です。</p> <p>先に蟹谷中学校が1クラスになることもありますが、津沢へ統合となると良いです。</p> <p>統合という点では、教育環境がより良くなり、また子育て世代の税負担が少なく済むように進めて欲しいです。</p> <p>自分の子どもが、約10年後に中学生になることもあり、経過を観察していきます。</p>	<p>・統合後の校舎については、前述「No.8」の③を参照下さい。</p>	<p>・答申案どおり</p>
10	<p>① 小学校は今のまま。中学校は小矢部市に1つが良いと思います。</p> <p>現在、蟹谷校区で保育園児と未就園児の2人を育てています。</p> <p>現状だと、小学、中学と1学級のみで9年間過ごし、その環境から高校進学ということに不安があります。とくに来年度からこども園になり、クラス数はまだわかりませんが、12年間同じ可能性もできました。</p> <p>しかし、地域の行事や通学の距離等を考えて、小学校での統合は（津沢と蟹谷だけだとしても）かなり調整が必要になると思います。</p> <p>さらに小学校が統合されれば中学校もほぼ必然的に統合になると思いますし、そこに時間やお金をかけていくよりも、小学校は今のまま、中学校を1つにする方が良いのではないかと。</p> <p>このままだと結局数十年後には1つになりそうですし。</p> <p>中学生であれば通学の距離がのびても、自転車通学、バス通学などある程度できるでしょうし、人数が増えることで部活動の種類が多様化されることは魅力的です。</p> <p>市での大会は無くなるのかもしれませんが、全国大会に行ける可能性が少し？高くなるのかもしれませんが。</p> <p>② そして、できればIT化の社会に対応した新しい中学校の設立が望ましいです。</p> <p>小矢部への移住の目的になるような中学校を1つ設立！！お願いします！！</p>	<p>・当審議会では、今後の学校教育のあり方として、まず小矢部市における望ましい学校規模について協議・検討致しました。</p> <p>その内容としては、P 4 に記載のとおり、「学校規模の大小に伴うそれぞれのメリットとデメリット」を比較検討したうえで、①教育環境面では、「人間関係の固定化等が生じることのないよう、クラス替えができる規模であること」「一定の集団活動が確保されること」「適度な切磋琢磨が生じる規模であること」などを、また、②指導体制面では、「グループ学習等、多様な指導形態をとることができる規模であること」などを、③学校運営面では、「教職員が互いに指導方法などを相談・研究できる規模であること」などを確保できることが望ましいとの判断に至りました。</p> <p>以上の観点及び小矢部市の地理的状況等を総合的に勘案し、小矢部市においては、P 5 に記載のとおり、「小学校は1学年2学級以上、学校全体で18学級以下」「中学校においても、1学年2学級以上が確保される規模」が望ましいとしました。</p> <p>このことから、既に全学年単級の学校と近い将来単級になると見込まれる学校について、再編の必要があると判断しました。</p> <p>具体的には、小学校は、東部小学校・蟹谷小学校・津沢小学校を再編の対象とし、中学校は、蟹谷中学校・津沢中学校を再編の対象としたものです。</p> <p>・ご提案の「市内1中学校への統合」についても協議・検討致しましたが、中学校においても過大規模校になることは望ましくないこと、また、P 20 に記載のとおり、市全体で1中学校とする場合は、適切な通学距離を確保するうえで、校舎は市域のほぼ中央に位置し、新設することが望ましく、「長期的な財政計画が必要と考えられる」こと、更に、「約40年後には市全体で4～5学級の学校規模になると推測されることから、その時期に市全体で1中学校への統合を検討する可能性がある」との考えから、「今後の長期的な課題として検討を続けることが適切」との判断に至ったものです。</p> <p>・通学手段の確保については、「No.4」の②を参照下さい。</p> <p>・ご指摘のとおり、ICT環境の整備については、小学校も中学校も今日の重要な課題となっていると考えます。</p> <p>ICT機器をはじめとする教育機材の充実、指導体制の充実、全ての市内小中学校において、しっかりと取り組まれることを期待するものです。</p>	<p>・答申案どおり</p>

<p>11 ①</p>	<p>小矢部市内の中学校は全て統合し、新しい校舎を1校建てるのが望ましいと考えます。</p> <p>小矢部市内の全ての中学校が老朽化し、この先何十年も使い続けることは望ましくありません。残念なことに、石動中学校については、設備や備品においてほとんどメンテナンスがされいません。子供達が学ぶ環境としては不適切な箇所がいくつもあります。メルヘン建築は見た目だけ派手にして、校内の設備は置き去りにされています。今の中学生は誰もメルヘン建築を誇りに思っていない。そんな学び舎で過ごした子供達に郷土愛が生まれるとは思いません。時代に合った設備を整え学習環境を良くすることで、郷土愛が生まれるのだと思います。県外の大学に進学しても、大人（納税者）になった時に小矢部市に再び戻り、定住を考えるのだと思います。</p> <p>学生の数が多いと、二つのメリットがあります。一つ目は、部活動が活発になること。中学生は勉強をするだけではありません。部活動が活発になることで、社会性を育むことも出来ます。二つ目は、適正な偏差値を知ることが出来ます。少ない人数で受ける定期テストだと、偏差値に偏りが生じます。大人数でテストを受けないと、適正な偏差値が出ません。県立高校を受験する時、子供達の実力が分かりにくくなります。</p> <p>中途半端な統合はやめて、思い切った教育改革が必要だと思います。</p>	<p>・市内1中学校への統合については、前述「No.10」の①を参照下さい。</p> <p>・答申案の策定にあたっては、児童生徒にとって最も望ましい教育環境はどうあるべきかを視点の中心に置き、学習面・施設面等の現状や地域コミュニティや防災面など多角的な視点から調査・検討を行うと共に、市民アンケートをはじめ、市内小中学校の教職員、保護者、地域の皆さんとの意見交換会を行い、広く市民の皆さんから多種多様な意見をいただいて、慎重に協議・検討を重ね、策定しました。</p> <p>なお、今後、存続する学校の校舎については、計画的な大規模改修が行われ、適切に維持管理されていくことが必要と考えます。また、学校設備の充実、学校再編を待つことなく、日々、取り組まれるべき課題と考えます。</p> <p>・中学校部活動については、P27に記載のとおり、「学校再編とは別に、地域への移行も含めた効果的な対策を早急に検討、実施することが必要」としたところです。</p> <p>・中学校教育においても、学力の向上は重要なことです。一方、中学校は、学力だけでなく心の成長の場としても大切な場と考えます。教師1人当たりの生徒数が過大となることなく、生徒一人一人に教師の目が行き届く規模を考慮した学校再編が望ましいと考えます。</p>	<p>・答申案どおり</p>
<p>12 ①</p>	<p>小学校はともかく、中学校に関しては児童数が少ないが故に特に部活動の選択肢が少な過ぎて興味のある部活動に入れられない（希望部がない）ので可哀想かなと思います。子供達のまだ見ぬ才能や夢を伸ばす手立てが中学進学により、止めてしまう事になる場合があったりする。また、選び抜いて部活動を決めても運動部は人数が足りず自校での試合チームが組めない。文化部も吹奏楽などは他地区の大きな学校に比べ人数が少なすぎて迫力すら欠ける。</p> <p>市内の中学校を1校に統合したらいいと思います。</p> <p>勿論、賛否両論あると思いますが、登校するにかなり遠くなってしまう場合はバス通学もあっていいと思います。</p> <p>今の大谷中学校の周りが田んぼなので、そこに増築し、大谷中学校を活用して小矢部市統合校にしたらいいいのかなと、安易かも知れませんが、思います。新たに新校舎設立はお金かかり過ぎるし、蟹谷は山過ぎるし、石動・津沢は土地的に増築出来ない。</p> <p>ご検討よろしく申し上げます。</p>	<p>・中学校部活動については、前述「No.11」を参照下さい。</p> <p>・市内1中学校への統合については、「No.10」の①を参照下さい。</p> <p>・通学手段の確保については、「No.4」の②を参照下さい。</p>	<p>・答申案どおり</p>

<p>13 ①</p>	<p>3校案が出ているが、少し先の将来を見越すなら2校とすべきと思う。 中学校：石動・蟹谷を統合、大谷・津沢を統合 小学校：中学校に準ずる</p> <p>(理由) 蟹谷・津沢を統合して1校としても地区別減少率からジリ負は避けられない。</p> <p>数年～10年程度で再度再編する必要が読めているなら、現段階の内に2校にするべきと考える。</p> <p>3校⇒2校(再度蟹谷・津沢をそれぞれに分離?) ⇒1校というプロセスか、3校⇒1校?</p> <p>統合には費用や労力の他、対象者の心的負担は統合の度に計り知れない。(税金は打ち出の小槌ではない!!)</p>	<p>・中学校の再編については、P19に記載のとおり、【蟹谷中学校を石動中学校へ統合し、津沢中学校を大谷中学校へ統合する案】も検討しましたが、次の課題があることから、蟹谷中学校と津沢中学校との統合が適切であるとの判断に至ったものです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 蟹谷中学校を石動中学校に統合した場合、津沢中学校を大谷中学校に統合した場合、共に、蟹谷地区、津沢地区からの通学距離が遠くなりすぎる 津沢中学校を大谷中学校に統合しても、令和30年頃には1学年2学級が生じ、1学年3学級を維持できず、両校を統合した理由が希薄になってしまうこと 小学校再編との整合性をとるためには、蟹谷小学校を石動小学校に統合し、かつ、津沢小学校を大谷小学校に統合する必要が生じ、小学生・中学生共に通学距離が遠くなりすぎる 津沢、蟹谷両地区から共に小学校・中学校が無くなることは、市域全体からみた地域バランスが偏るとともに、両地区からの理解が得られにくいこと <p>また、【市内1中学校への統合】についても、協議・検討しましたが、その検討結果については、「No.10」の①を参照下さい。</p> <p>・小学校については、P4に記載のとおり、「教師1人当たりの児童生徒数が過大とならず、児童生徒一人一人に教師の目が行き届き、きめ細かな指導がしやすいよう、大規模とならない規模であること」が望ましいとの考えに立ち、「1学年2学級以上、学校全体で18学級以下」が望ましいと判断致しました。</p>	<p>・答申案どおり</p>
<p>②</p>	<p>また、市内1校の規模までの人口減少にはならないと考える。 現在の人口減少の主な原因は団塊以上の世代の減少が大きな要因。 統計を読み取る限り、小矢部市の過去20年の20歳以下の人口は、成人の団塊以下の人口に対しての減少割合と比較し微小である。 であるならば、現在の見込生徒数で下げ止まりとなる事が考えられ、現在の未成年世代が子育て世代になる時も現在の生徒数以上の維持が見込められるからです。</p>	<p>・将来の人口予測については、様々な考えがあるものと思われ。</p> <p>今回、当審議会では、まずは直近年度までの実際の出生数を元に、小学校は令和7年度、中学校は令和13年度までの児童生徒数の推移を予測しました。 これはほぼ実数に近い人数と見込まれます。</p> <p>一方、令和42年度までの長期予測については、小矢部市が2015年度に策定した「小矢部市人口ビジョン」の予測を用いて推計しました。</p> <p>一方、望ましい学校規模についても考察し、その結果と照らし合わせ、更に地理的状況等も総合的に勘案したうえで、具体的な再編方策として、「東部小学校と石動小学校の統合」「蟹谷小学校と津沢小学校の統合」及び「蟹谷中学校と津沢中学校の統合」が望ましいと判断したものです。</p> <p>・また、今回の推計のまま、児童生徒数の減少が続けば、【市内1中学校への統合】も検討する可能性が生じることから、このような再編についても「今後の長期的な課題として検討を続けることが適切」としたところ。</p>	
<p>③</p>	<p>(不要になる校舎の利用法) 小矢部市には毎年県外から各種競技などで遠征に来る社会人・大学生・生徒が多くいるが宿泊できる受け入れ施設が非常に少ない。 耐震改修済みの校舎を宿泊施設に用途変更する事が有意義と考えます。 各校舎にはダムウェーターがあるので他の施設に比べて宿泊施設としての利用もし易い。 体育館は競技会場だけでなく屋外競技のアップ会場としても利用できると思います。 また、災害時などの避難施設としても存続する必要があると考えます。</p>	<p>・再編により学校施設でなくなる諸施設については、「No.6」の③を参照下さい。</p>	<p>・No.6の③のとおり</p>
<p>④</p>	<p>懸念される事は、学校数の減少に伴い、北信越や全国大会に出場できる枠が減り、スポ少や中学校の部活の活性の低下を伴うのではないかと思います。</p>	<p>・中学校の部活動については、「No.11」を参照下さい。</p>	<p>・答申案どおり</p>
<p>⑤</p>	<p>学校までの距離が長くなる事も上記の低迷につながるので、通学などの対策をどの様にするかが課題と考えます。</p>	<p>・通学手段の確保については、「No.4」の②を参照下さい。</p>	

14	<p>① ・賛成です。 課題となるのは、登下校のこと、学童のことでしょうか</p> <p>② ・大谷小学校も、東部小学校、石動小学校と統合してほしい</p> <p>③ ・保育園、保育所と同じように選びたい</p> <p>・住まいが大谷校区エリアでも石動エリアの保育所、保育園に入っていた子どもが小学校への進学で疎外感を感じないように、小学校の選択肢がほしい。 早急に対応してほしい。（保育所の統合により、他園に通う子どもは、以前以上に疎外感を感じると思うため）</p>	<p>・通学手段の確保については、「No.4」の②を参照下さい。</p> <p>・放課後児童クラブについては、「No.4」の③を参照下さい。</p> <p>・望ましい学校規模を考察すると共に、通学時間や地理的な状況等を総合的に勘案した結果、小学校の再編については、P18、P19に記載のとおり、東部小学校と石動小学校、蟹谷小学校と津沢小学校とを総合することが望ましいと判断しました。</p> <p>大谷小学校は、今後40年、望ましい学級数としての「1学年2学級」が継続すると見込まれます。 また、P4の②指導体制面で記載しましたが、「教師1人当たりの児童生徒数が過大とならず、児童生徒一人一人に教師の目が行き届き、きめ細かな指導がしやすいよう、大規模とならない規模であること」が望ましいことから、「学校全体でも18学級以下が望ましい」規模としました。 このことから、大谷小学校は、今回は再編の対象外としたものです。</p> <p>・ご提案のような市内のどこに住んでいても入れる「特認校」の設置については、各学校の入学人数が見込みにくくなったり、特定の学校に偏ったりする懸念があり、また、通学手段及び地域との繋がり確保など、課題が多いことから、今後の検討課題と考えます。</p>	・答申案どおり
15	<p>① 大谷小校下在住者です。 現在、年中の娘が、石動小校下の保育園に通っています。</p> <p>（小学校について） 石動、東部の統合に、大谷も入れてほしいです。 娘が小学校にあがるまでに統合に至らなかった場合は、希望する小学校に入学させてほしいです。</p> <p>（理由） 娘が、たくさんの大好きな友だちと離れたくない、石動小学校に行きたいと言っていること（いじめや不登校を回避するべく、同じ保育園の友人関係を続けたい） 大谷小までの通学路が心配であること（バス通圏内ではないが、徒歩でかなりな距離を田んぼしかない人気の無い道を通わせるのは、安全上及び、防犯上、非常に心配）</p> <p>以上の理由から、希望者には越境入学に柔軟に対応していただきたく、また、娘が一年生になるまでに早急の対応を是非お願い致します。</p> <p>② （中学校について） 統合賛成です。</p> <p>大谷は、小学校、中学校のメンバーが変わらない為、小学校で友人関係につまづいた場合に、やり直せるチャンスが無いこと、そして新たな友人を作るチャンスが無いという事は、中学校で新たなたくさんの素晴らしい友人と出会えた私自身の経験からすると、非常に残念です。</p> <p>こちらも娘が中学校にあがるまでに、早急に話が進むことを期待しています。</p>	<p>・大谷小学校の統合については、前述「No.14」の②を参照下さい。</p> <p>・全校特認校化については、前述「No.14」の③を参照下さい。</p> <p>・校区の分割についても協議・検討しましたが、P25に記載のとおり、「在学中に別の学校へ移ることになる児童生徒の負担が大きいことから、今回の学校再編においては、現校区の分割は採らない」ことが適切と判断したところです。</p> <p>・通学路の安全等については、交通事故や犯罪から子ども達を守ることは最も重要なことであり、通学路安全推進会議を通じた関係機関との連携と共に、子ども達の登下校時の保護者や地域の皆さんのご協力による見守り活動などが図られているところです。 全ての学校において、通学も含めた学校の安全対策の強化について、行政・地域が力を合わせた取り組みを期待するものです。</p> <p>・中学校の再編については、P19に記載のとおり、望ましい学校規模の実現と小矢部市の地理的特性等を総合的に勘案して、蟹谷中学校と津沢中学校の統合が望ましいとしました。</p> <p>なお、津沢中学校を大谷中学校へ統合する案や市内全体で1中学校とする案も検討しましたが、P19、P20に記載のとおり、それぞれに課題があり、今回は、上記2校の統合が適切としたところです。</p>	・答申案どおり

16 ①	<p>審議会の皆様におかれましては大変お疲れ様でした。答申（案）については概ね同意できる内容であると思えます。</p> <p>しかしながら、統廃合の時期や新校舎等の積み残しがあるように感じます。不確定な部分については早急の策定が望まれます。小中一貫校についての記述が見当たらない点も気になる点です。</p> <p>それから、本件は統廃合に伴う（校舎や区割りの仕組み等）ハードウェアについてのデータが多く採用されているように感じます。教育内容や人材、育成等のソフトウェアについても考慮していただきたいと思えます。</p> <p>また、本件について十分に周知されていない、との意見もあります。説明会等ではアンケートや意見聴取の方法などへの質問もありましたので、広報については一考の余地があったようにも思えます。</p> <p>答申（案）の通りにならない部分もあると思えますが、スピード感をもって進めていただきたいと思えます。子供たちの輝く未来のためにどうぞよろしくお願い致します。</p>	<p>・ご指摘のとおり、今回の答申案においては、統合の具体的な時期、蟹谷小学校と津沢小学校の統合後の校舎、蟹谷中学校と津沢中学校との統合後の校舎、また、小中一貫教育について明記していません。</p> <p>これらの点については、今回は、当審議会で答申する域を超えている課題との認識が多くの委員から示され、明記に至らなかったものです。</p> <p>今後、市において策定される予定の「（仮称）再編推進計画」において、ご提案の内容も参考として検討が進められ、その方向性が示されることを期待するものです。</p>	答申案どおり
17 ①	<p>蟹谷は熊がでるイメージがあるので、子供を通わせるのは怖いです。</p>	<p>・近年、市内複数の学校周辺や通学路において、熊や猪、猿等の出没が生じていますが、行政では、防災・緊急メールでの注意喚起や必要に応じて警察や市鳥獣被害対策実施隊と連携した対応が行われています。</p> <p>全ての学校において、通学も含めた学校の安全対策の強化について、行政・地域が力を合わせた取り組みを期待するものです。</p>	答申案どおり

No.	ご意見	答申案における考え方	対応
18①	<p>小中学校の統廃合について 学校統廃合審議会から今回答申案が発表されました。 東部小学校は石動小学校に統合 蟹谷小学校と津沢小学校を統合 蟹谷中学校と津沢中学校を統合</p> <p>この答申案の根拠として、市民からのアンケート結果がある様です。 1学年の学級数はどれ位が望ましいかの結果 2～3クラスに意見が集中した 1クラスが良いは僅かだった これは、単に1クラスが良いか、2～3クラスが良いかとの設問であり、統廃合をして2～3クラスを強く希望する事を望んでいる意見とは思えない。</p> <p>一方で学校教育への市民の期待は、①子供の悩みへの真摯な対応22.1% ②わかりやすい授業の実践20.4% ③全ての子供への公平な対応と適正な評価19.7% がダントツに多い。この事から1クラスの児童数は20～30人程度を希望していると思われる。</p>	<p>・望ましい学級数及び望ましい1学級当たりの人数についての考え方の詳細については、「No.10」の①を参照下さい。</p> <p>なお、当審議会では、市民アンケートの結果は、あくまでも参考として受け止めて協議を進めたものであり、アンケート結果のみを根拠として答申案を示したものではありません。 しかしながら、2～3クラスを望む意見が小学校で約7割、中学校約6割であったことは、そのような学校規模を望む声が多いものとして受け止めることが妥当と考えるものです。</p> <p>当審議会では、子ども達にとって、どのような学習環境が望ましいかについて協議を進めてきましたが、協議が深まる中で、その要となる視点の一つが「学級数」であるとの認識に至ったものです。 望ましい学級数については、当審議会では、学校は単に知識を得るための場ではなく、社会性を身に付ける場でもあること、また、新しい人間関係を築ける力を育む場でもあることなどから、P4に記載の記載のとおり、人間関係の固定化が生じやすい単級ではなく、より多様な教育環境が確保される複数学級が望ましいとの判断に至ったものです。 また、生活面においても、より多様な意見に触れて自分の考えを見つめ直したり、他者との違いを認めたり、折り合いの付け方などを学ぶうえでは、子ども達の間で、「〇〇君は、こういう人だ」などのように、相手の人間性評価が固定化することは望ましくなく、クラス替えによって、子ども達が人間関係を見直しできる環境が望ましいと判断したものです。</p>	答申案どおり
②	<p>この本来の学校教育への期待が有るのに、統廃合をして2～3クラスを希望する事を優先して、統廃合を進める根拠に「クラス替えの出来る規模」が市民の学校教育を進める上で最優先の強い要求であるかのようになり、答申案に貫かれている。 その理由にいじめ対策が有るようですが、いじめはクラス替えをするだけで果たして、いじめを無くする事が出来るのか。 いじめを早期に気付き、芽を摘み、良い方向へ対処する事が必要とも述べられています。</p> <p>先に記した様に、学校教育への市民の大きな3つの期待から、1クラスの児童数は20～30人程度を希望しているにも関わらず、統廃合ありきの様な論立てにより、統廃合後の学校は（次の図で示された答申案によると）</p> <p>石動小と東部小の統合 ⇒ 図中注1)の1クラス児童数は31～37人（R12の6年生は37人） 蟹谷小と津沢小の統合 ⇒ 図中注2)の1クラス児童数は 31～40人（R7の小6は40人） 蟹谷中と津沢中の統合 ⇒ 図中注4)の1クラス児童数は 36～40人</p> <p>これは、市民の1クラス児童数は20～30人程度を希望する声を無視した統廃合ありきの答申と言わなければならない。</p>	<p>・望ましい学級数は、具体的には、「小学校は1学年2学級以上、学校全体で18学級以下」「中学校でも1学年2学級以上を維持できる規模」との判断致しました。 また、ご指摘のとおり、1学級当たりの望ましい児童生徒数については、「20人から30人程度」としたところ です。</p> <p>この1学級当たりの望ましい人数については、P5に記載のとおり、「教師の目が一人一人の児童生徒に行き届き、きめ細かな指導」が確保される一方、「グループ学習等による授業が成り立ち、多様な意見に触れることができること、また、委員会等の学級活動が成り立つことが望ましい」との観点に立ち、両者のバランスにおいて、20人～30人が望ましいとの判断に至ったものです。</p> <p>なお、1学級当たりの人数は20～30人が望ましいとすることと、1学年に複数級あることのほうが望ましいとすることは、どちらかを選択する関係にあるものではありません。 前者は、学級の中での授業や学級活動の面に着目した考察であり、後者は、学年という視点から学級の数について考察するものです。 従って、1学級当たりの児童生徒数が実際に20～30人である場合も、学級数においては複数級が望ましいと考えるものです。</p> <p>また、いじめについてですが、実際に、いじめは単級でも複数級の学校でも認知されており、また、その解消には、個々のケースに応じた丁寧な対応が必要と考えます。 「いじめはクラス替えをするだけで無くすことができる」との見解は、答申案には示しておりません。</p>	

注3)令和7年の1年と4年は3クラスと教室が増える。

学年	小学1年生		小学2年生		小学3年生		小学4年生		小学5年生		小学6年生		小学校計	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
令和元年度	76	3	78	3	70	2	74	2	87	3	68	2	453	15
令和7年度	74	3	70	2	58	2	83	2	68	2	68	2	421	14
令和12年度	68	2	68	2	69	2	69	2	70	2	74	2	418	12
令和22年度	62	2	63	2	63	2	64	2	64	2	65	2	381	12
令和32年度	57	2											348	12
令和42年度	52	2											321	12
令和元年度	57	2											346	12
令和7年度	51	2											329	12
令和12年度	53	2											320	12
令和22年度	49	2											300	12
令和32年度	45	2											276	12
令和42年度	41	2											252	12

注1)1クラスの生徒数が31人~37人
令和12年の6年生は37人
令和7年は74人で3クラスなのに令和12年はなぜ2クラス?

注2)1クラスの生徒数が31人~40人

注4)1クラス36人~40人

学年	中学1年生		中学2年生		中学3年生		中学校計	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
令和元年度	96	3	102	3	98	3	296	9
令和7年度	76	3	78	2	70	2	224	7
令和13年度	74	3	70	2	58	2	202	7
令和22年度	65	2	66	2	67	2	198	6
令和32年度	59	2	60	2	61	2	180	6
令和42年度	55	2	56	2	56	2	167	6
令和元年度	60	2	57	2	67	2	184	6
令和7年度	57	2	58	2	56	2	171	6
令和13年度	51	2	43	2	55	2	149	6
令和22年度	51	2	52	2	52	2	155	6
令和32年度	47	2	48	2	48	2	143	6
令和42年度							131	6
令和元年度	77	3	71	2	69	2	238	8
令和7年度	73	3	71	2	79	2	223	7
令和13年度	57	2	49	2	59	2	165	6
令和22年度	56	2	57	2	58	2	171	6
令和32年度	52	2	52	2	54	2	158	6
令和42年度	47	2	48	2	49	2	144	6

なお、現在の国・県の学級編制基準では、小学1~3年生、中学1年生のみが35人とされ、他の学年は40人とされていることから、P5に記載のとおり、当面は、全ての学年で35人学級が実現されることが望ましいことにも言及したところです。

その時々学級数と各学級の人数については、その時の児童生徒数によって変動が生じますが、概ね、各校共に答申案で示した水準で推移するものと見込んでいます。

蟹谷中学校と津沢中学校との統合時期については、「津沢中学校が全学年単級となる前に実施することが望ましい」としており、蟹谷小学校と津沢小学校との統合時期については、「蟹谷中学校と津沢中学校との統合を先行して行った後、速やかに実施することが望ましい」と致しました。

図表における学級数の算出にあたっては、前述の現行の国・県の学級編制基準に基づいて算出した学級数を表記しています。

③ 確かに東部小はR12~は8~10人クラスとなると予想されています
しかし、現在東部小の周辺に住宅が建ち、にぎわいが生じている
答申の<付記>にも、東部小の校下は地区の発展により、今後大きく伸びる可能性がある とあります

・東部小学校を石動小学校へ統合する時期については、「早期」に実施することが望ましいとしております。
東部小学校では、P12の予測表が示すとおり、直近年度までの出生数からみて、令和5年度からは各学年平均14人以下となり、令和7年度には平均11人にまで減少すると見込まれます。
これは、少人数学級によるメリットはあるものの、一方で、学級活動やグループ学習を進めることが困難となり、集団活動を通じた社会性の育成や適切な授業の推進という面が懸念されます。

当審議会の協議の中でも、東部小学校下の児童数は、地区の発展により、今後大きく伸びる可能性があるという意見がありました。

その意見は答申案に付記したところです。
しかしながら、現時点での推計においては、東部小学校が今後1学年2学級以上に達することは難しく、再編の対象とすることが望ましいと判断したものです。

④ 一方財政問題に繋がる問題として、校舎については
・石動小は全学年2学級が入れる教室が有り、校舎改修は必要ない とあるが各学校施設の現況では、「各教室を有効に利用しており、全く使われていない「空き教室」は有りません」と報告されています。
しかし、図中注3)には、令和7年の小1と小4のクラスは3クラスとなると有ります。そうであれば、現状の教室の使い方を変える必要が有る為、問題が生じませんか。
・蟹谷小、津沢小の統合校舎は、蟹谷中、津沢中の統合校舎と同じくどちらかの校舎を利用、又は両地区の間での新設を含めて検討する事が適切とある。
つまり、石動小学校も、蟹谷津沢小・中学校も多大な予算を伴う答申だと言う事です。

・石動小学校の普通教室数については、普通教室18学級+特別支援教室2学級の設定で建築されており、普通教室に14教室が必要になっても、残り6教室あることから、学習面での対応は可能であり、予算を伴うことなく統合可能と判断しました。

・蟹谷小学校と津沢小学校との再編後の校舎の位置については、現在の蟹谷小学校校舎又は津沢小学校校舎を使用することで、統合による経費を抑えることとしております。

なお、両地区のほぼ中間での校舎新設は、統合した後「次の大規模改修が必要となる時期」に「再検討することが適切」としたものであり、現時点での選択肢として示したものではありません。

<p>18 ⑤</p>	<p>東部小学校校下の地区は発展する可能性を持っている。</p> <p>蟹谷小も中も津沢小も中も、今後30年間1クラス20人～30人程度の適正規模が続くと予測が有る中で、あえて統廃合をする意味はどこにも見当たらない。</p> <p>東部小学校の生徒数が増えないと判断した場合は、いつかの新入生から、石動小学校と東部小学校の通学地域割りを調整する事も十分可能ではないでしょうか。</p> <p>統廃合によって生じるのは、学校の先生が減少し、行き届いた教育が出来なくなり、学校の先生と言うブラックな職場環境が一層ひどくなる。</p> <p>そして、学校教育への、1人の生徒も取り残さない教育をしてほしいという、市民の期待に応えず、市の財政がひっ迫して、結局市民にそのツゲが廻ってくるという事がはっきりと示されたのが、この答申案だと思います。</p> <p>財政問題では、先生の給与は県の担当です。</p> <p>市は学校の施設を維持管理する事になるが、これは学校1校あたり国からの900万円程度の交付金が有り、現在東部小学校では、維持管理費との差引で市は52万円、蟹谷中学校は7万円の負担と報告されている。</p> <p>この学校数を減らせば、1校当たりの交付金が減り、統合した学校の維持管理費は増えるという事になります。</p> <p>学校統廃合をして財政が助かるのは、先生の人件費が減る事による県と学校数が減る事による交付金が減る国だけです。</p> <p>あえて言えば、統廃合に伴う建設会社は仕事が増えると言うメリットが有る。</p> <p>市は統廃合に伴い、廃校後も市民要求である災害避難施設に使う、又は多くの市民が現在の学校施設を利用している事から残す選択肢もあると思います。</p> <p>あるいは、そうした市民要求を取り入れる事無く、取り壊す事も考えると、多大な財政負担を伴い、益々財政が苦しくなる。</p> <p>県下に先駆けて、市内の小中学校の普通教室にエアコンを設置し、耐震化工事もいち早く終わらせるといふ他市がうらやむ状態の学校を作っていました。</p> <p>せっかく作った学校を廃校にするのではなく、1年でも長く大切に使用する。</p> <p>そして、1人の子供も取り残さない教育をしようと、小学低学年に市が単独で補助の先生を付けている小矢部市の誇るべき、取り組みを続けていただきたいと思えます。</p> <p>小矢部市財政が県内で最悪の状態にある様ですが、城山まちなかトイレやおとぎの館はまだまだ使え法定耐用年数で16年近くもあると聞きます。</p> <p>まだ使えるものを次々に壊して、最終的に市民サービスや教育、福祉を圧迫する事無い様に、市民目線で市政運営に努めてほしいと願う者ですが、いかがでしょうか。</p>	<p>・当審議会では、あくまでも、子ども達にとって最も望ましい学校教育環境はどうあるべきかを中心に据えて協議・検討を重ねてきました。</p> <p>その結果、望ましい学校規模とは何かを明らかにし、その実現のための再編案をまとめたものです。</p> <p>一方、P27に記載のとおり、統廃合によって通学バスの増便など、逆に財政負担が増えるケースもあり得ることも含めて答申案としています。</p> <p>今回の答申案は、決して、市財政の困窮を市民に押しつけるためにまとめたものではないことを明言させていただきます。</p> <p>・校区の分割については、「No.15」の①を参照下さい。</p> <p>・再編により学校施設でなくなる諸施設については、「No.6」の③を参照下さい。</p> <p>・今回の答申案は、小矢部市の子ども達一人一人の育ちにとって、最も望ましい学校教育環境について考察した結果をとりまとめたものです。</p> <p>一方、小矢部市において、これまで行われてきた「スタディメイト」や「多人数学級支援講師」などの取り組みは、学校再編後も継続し、充実を図られるべきものと考えます。</p>	<p>・No.6の③のとおり</p>
<p>19 ①</p>	<p>小中学校統廃合審議会答申書案に関する私見</p> <p>本答申案はまず、はじめにで、目的は「児童生徒にとってもっとも望ましい教育環境」を考えることとなっています。</p> <p>そして、1. (1)で、学校教育のあり方の基本は、社会変化に対応できる「生きる力」育成であると述べています。</p> <p>これを達成するため、2. (2)で、①人間関係固定化しないクラス替え可能な、②一定の集団活動できる、③切磋琢磨できる、④多様性ある価値観に触れる「一定規模」=適正規模が必要と規定しています。</p> <p>後は、すべてこの規定から、学校統廃合の具体的叙述がなされています。</p> <p>従って、この2. (2)の中に、小矢部市民の意見が総括的に現れているのか、あるいは1. (1)で述べている「生きる力」育成に「一定規模」が必須なのかを検証する必要があります。</p> <p>まず、私も出席した市民の意見交換会では、規模の問題がそんなにあったでしょうか？規模の問題より、先生の人数、忙しさ、通学距離等だったと思います。</p> <p>規模の問題も、先生の足りなさ、忙しさから派生してきた問題だったと思います。</p>	<p>・当審議会では、子ども達の最も重要な学びの場である学校について、その望ましい規模について協議・検討を重ねてきました。</p> <p>教職員との意見交換会での意見や市民アンケートの結果、保護者意見交換会での意見等も踏まえ、P4、P5に記載のとおり、望ましい教育環境について、とりまとめたところです。</p> <p>学校は単に知識を学ぶ場ではなく、集団活動を通して様々な学び成長していく場としても重要な役割を有し、そのためにも学校には一定の規模は必要との認識に立つものです。</p> <p>一方、教師の多忙解消に向けての改善や教員の資質向上は、不断に取り組みされるべき課題であると考えます。</p> <p>学校規模の適正化も必要に応じて取り組みされるべき課題と考えます。</p>	<p>・答申案どおり</p>

<p>19 ②</p>	<p>次に、「生きる力」育成に「一定規模」が必要かという問題ですが、私はその育成に児童生徒にとって最も良い環境は、man to man の個人レッスン、家庭教師だと考えます。</p> <p>しかしそれでは金が掛かり過ぎるので、金銭的に適正規模まで人を集め、学校としただけです。</p> <p>児童生徒の「生きる力」育成のために適正規模があるというのは、まやかしだと考えます。</p> <p>あくまで、予算的に金銭的に適正規模が有るのだと言う点を偽り無く市民に伝えるべきです。(これは、消費税が社会保障のために必要ですという政府のごまかしと同一です)</p> <p>やるべきは、市民の声を反映した教師の人数的、時間的要求をまず満たして、教師の待遇を良くして、良質の先生を育てることです。</p> <p>まずここに予算を割くべきです。</p> <p>その上で、現在ある建物等は耐用年数までは大切に使い、教科書、実験器具や楽器や運動道具等購入に必要な予算を考えることです。</p> <p>予算的に、それらの設備費が1校では持たない場合や、専門教科の先生を1校では持ちきれないときに、初めて学校の統廃合にするか、先生が移動して廻るか、設備の貸し借りをするかなどのお話になるのではないですか。</p> <p>まして、国家的詐欺で、大金持ち言い成りの消費税や、爆撃機の爆買をやっている今の政府の無駄使いをちゃんと正して、教育費に回せば、まだまだ質の高い教育が出来るはずですよ。</p>	<p>・ 答申案に示した学校の再編が、各学校の教材整備などを含め、教育環境をより高める効果をもたらすことを期待するものです。</p>	
<p>③</p>	<p>始めに、統廃合ありき、まして、適正規模があるから統廃合というような話にはのれないという感想です。市民の声が全く反映されていない答申書は市民要求からかけ離れた答申書と言わざるをえません。</p>		
<p>20 ①</p>	<p>学校再編すべき理由が見当たらない「答申案」</p> <p>保護者・地域住民・教職員・審議会委員など多数の意見集約や、文科省手引き他各種データを踏まえたと言われる膨大な「答申案」及び資料を読ませていただいて、まず、審議会の委員各位と事務局のご苦労に敬意を表します。</p> <p>これほど労力をかけ、民主的な手法をとったはずの「答申案」ですが、結局のところ、「学校を取り巻く環境は大きな転換点を迎えようとしている」との「諮問」の状況認識に対し、使命を帯びたかのように学校再編の結論ありきの土台の上に築き上げた「答申案」と見受けられます。</p> <p>調査・協議・検討にあたって「はじめに」で、「児童生徒にとって最も望ましい教育環境はどうあるべきか」を視点の中心に置き、多角的な視点から進めたといいながら、あるいは、慎重に協議・検討を重ねたと言いつつ、答申案文では、文科省編（H27. 1作成）の「適正規模・適正配置の手引き」と現場教職員との意見交換会を踏まえただけで、学校規模に伴うメリット・デメリットを検討し、いきなり小矢部市の学校における「学校における望ましい教育環境」を打ち出していることに唐突感を覚えます。</p> <p>事前にとったアンケート結果や各種意見交換会も踏まえているとも思われますが、答申案文には明記されていないのでさほど重視していないものと考えられます。</p> <p>具体的に見ると、①教育環境面として、「クラス替えができる規模」「集団活動が確保される規模」「適度な切磋琢磨が生じる規模」「多様な価値観を持つ仲間とふれ合える規模」を強引に導いています。</p> <p>この強引さは、文科省の手引きを金科玉条のごとく据え、権威を見せびらかすかのように論を進めているからだと思われます。</p> <p>さらに、①のような規模が妥当だと言わんがために、②指導体制面 ③学校運営面でも、現場教職員の生の声を踏まえた権威あるもののように見せて、ふさわしい規模を導いています。</p>	<p>・ 当審議会では、子ども達の最も重要な学びの場である学校について、まず、どのような規模が望ましいのかを中心に協議・検討を重ねてきました。</p> <p>文科省の手引きだけでなく、教職員との意見交換会での意見について検討するとともに、市民アンケートや保護者・地区意見交換会での意見等も総合的に踏まえて、今回の答申案に至ったものです。</p> <p>当審議会では、No.18の①に記載のとおり、子ども達にとってどのような学習環境が望ましいかについての協議が深まる中で、その要となる視点の一つが「学級数」であるとの認識に至りました。</p> <p>協議・検討の結果、当審議会において、複数学級が望ましいと判断した理由については、P4. P5及びNo.18の①を参照下さい。</p> <p>当審議会は、予め結論や予断を持たず、各委員共にフラットな姿勢で協議を進めて参りました。</p> <p>すでに全学年単級である学校と近い将来全学年単級となる学校について、学校再編が望ましいとの答申案に至ったのは、このような望ましい学校規模の実現に向けて、どのような取り組み方策が適切かを協議・検討した結果です。</p> <p>なお、市民アンケートの結果や保護者・地区意見交換会での意見は、協議の過程において委員各位の発言に引用されることも多く、その内容も重視して協議が進められたものであり、市民アンケート結果と保護者・地区意見交換会の概要については、「別冊資料集」に掲載してあります。</p> <p>・ 意見交換会等では、貴ご意見のように、必ずしも切磋琢磨は良くないとする発言もあり、様々な意見が出されました。</p> <p>当審議会においては、複雑な人間関係や厳しい競争社会の中で生きていかなければならない子ども達の今後の成長を考えた時、「適度な」切磋琢磨は必要とする判断に至ったものです。</p> <p>一方、人間関係が固定化することについても賛否両論があると思われませんが、当審議会においては、マイナスに働く面が多いとの認識に立ったものです。</p>	<p>・ 答申案どおり</p>

「資料」にある市民・保護者・教職員の意見を読むと、確かに「切磋琢磨が必要」「人間関係が固定化されないよう、クラス替えが必要」などの意見が見受けられますが、あくまで、意見の一つではあるが、結論とするには性急すぎると考えます。

なぜなら、「切磋琢磨」が必ずしも人を磨き上げるものとならずに、過度な競争主義に陥る危険な側面があるからです。

子どもの自然な競争意識を芽生えさせるのには、規模の大きな集団は必要ありません。

また、人間関係が固定化されることは、子どもたちにとって決してデメリットではありません。

むしろ、安定した継続的な人間関係は、子どもたちの成長にとって必要なことです。

ですから、これら「資料」の意見は教育現場の指導法で解決できるものであり、ふさわしい規模の結論とするには無理が生じます。

この無理のある論理の上に、小矢部市の地理的状況等を総合的に考慮したとして、いかにも再編やむなきの結論に持ち込むのに、小中学校とも1学年2学級以上を維持できる規模とする「望ましい学級数」を導いています。

1学級当たり20人から30人程度とする「1学級当たりの望ましい児童生徒数」の理由に挙げた「教師の目が行き届き、きめ細かな指導が行われるため」という視点は評価できますが、これも児童生徒数の将来予測から再編後最大でも3学級以下となることから割り出せば、結果として20～30人程度になるということに過ぎません。

論理の飛躍の大元は「1学級（単級）は望ましくない」との結論を導こうとしていることにあります。

その理由は唯一、「人間関係の固定化等が生じないよう、クラス替えができる規模」に求めていると見られます。

先に述べたように、人間関係の固定化はマイナスにはたらくものではなく、安定した継続的な人間関係で自己肯定感や社会性が育つなど、子どもたちの成長にとって必要なことなのです。

また、教職員との意見交換会で、いじめ対策としてのクラス替えできる規模が話題になっていますが、いじめはむしろ規模が大きく人間関係が不安定だからこそ起きると言え、審議会委員の感想にあるようにいじめへの真の方策は別にあり、単級が望ましくないとの理由にはなりません。

アンケートや各意見交換会の声を読むと、保護者、地域住民の中には「クラス替えができないなら、統廃合が避けられない」との気分があるのは事実ですが、このことに関して審議会で専門家等の知見も交えてじっくり議論を交わしたのか不明です。

安易に市民の気分に乘った結論のように思えます。

こう見てくると「1学級（単級）は望ましくない」の理由は「答申」のどこにも見当たらないこととなります。

こうして導き出された「具体的な望ましい学校再編」は、論理の飛躍の上に置かれていると言わざるを得ません。

<付記>で紹介されている各種慎重・時期早々意見が、単なる付記として飾られているだけであることに違和感を持ちます。

現在全学年が1学級であったり近くそうなる見込みの東部小、蟹谷小、津沢小、蟹谷中、津沢中に子どもを通わせる保護者や地域住民の不安を煽って、無理やり再編へ持ち込もうとするように思えます。

むしろ、1学級であっても充分子どもを望ましく成長させられることを示していくのが、「答申」の真のあるべき姿ではないでしょうか。

市内の学校をすべて2～3学級と画一化するのではなく、答申案や市民意見のあちこちで重視されている「多様な価値観を持つ仲間とのふれ合い」に因んで、単級の学校、複数学級の学校をそれぞれの学校の多様性だとならえ、それを尊重しながら特色ある学校づくりを展開していくことこそ大切にされるべきでしょう。

なお、当審議会では、P5に記載のとおり、望ましい学校規模として、小学校は「1学年2学級以上、学校全体で18学級以下」とし、中学校は「1学年2学級以上を維持できる規模」と判断致しました。

P4にも記載のとおり、このような判断に至るにおいては、文部科学省作成の手引きに記載されている学校規模によるメリット・デメリット比較や市民アンケート、市内教職員との意見交換会、保護者・地区意見交換会等での意見を踏まえたものです。

例えば、市内教職員との意見交換会では、資料編P38に記載とおり、教育環境面において、単級の場合は、「クラス替えができず、人間関係が固定化され、新たな人間関係を築く力を育てにくい」「単級のため、同学年の学級同士で切磋琢磨することがあまりない」との意見や「学級編成は…中略…子ども達にとっても新たな気持ちでスタートできたり、人間関係の固定化も防ぐことができたり、とても良いこと」との意見があり、また、指導体制面において、「1学年に2学級の場合、学年の子ども達を少なくとも2名の教員で見ることが出来る。」などの意見が出されています。

この意見に対する審議会委員の感想は、資料編P39に記載のとおりであり、当審議会としては、このような様々な過程の検討を経て、単級の解消が望ましいとの認識に至ったものです。

20	<p>他、答申案で紹介されている市の財政面や地域との連携面から見ても、再編しなければならない理由が見当たりません。</p> <p>答申案の「おわりに」で、「今後学級編制基準の変更や、児童生徒数の推移などに予測を超える事態が生じた場合には、改めて検討の場を設けられることが適切と考えます。」と書かれていますが、むしろ「審議会」として、学級編制基準改善や人口増について座して待つのではなく、積極的に行政に対して求めていく立場に立っていただきたいものです。</p>		
21	<p>① 小中学校統廃合審議会の答申案に対する市民意見</p> <p>1. 審議会が、学校教育の在り方を主とし、望ましい学校の規模、配置等については、従とする立場を堅持してもらいたい。</p> <p>そして、学校教育の在り方を考えるとき、子ども、家庭、地域を主とし、学校や文科省を、前者に奉仕するものと位置付けることが肝要だと考えます。</p> <p>② 2. 貴委員会は「小矢部市のこれからの学校教育のあり方及び小中学校の適正規模・適正配置等に関する市民アンケート」を実施されました。</p> <p>その(6)「教育環境の変化について」では、学校の「施設設備」はよくなったが、家庭、保護者の「教育力」が悪くなった。</p> <p>また、子どもの「知誠、学力」は増えたが、「安全」については、良くなったとするものが3分の1、悪くなったとするものも3分の1となり、評価がわかれています。</p> <p>事故は少なくなったが、いじめや犯罪など人為的な問題が増えていることへの危惧が現れていると思われる。</p> <p>③ 3. アンケート(7)「家庭・学校・地域の役割について」では、役割分担のあるべき姿が読み取れます。</p> <p>基本的な生活習慣、情愛、意欲、精神・身体の健康管理など、ほとんどが家庭の役割として期待され、学校は、学力知識文化に役割を持ち、学校が舞台となるいじめ防止に当たればよい、と考えられているようです。</p> <p>しかし、とも稼ぎ、長時間労働の親がますます多くなっている現状では家庭がその役割を担いきれず、その結果、前項の、家庭の教育力が悪くなった、という評価が出てくるように思われます。</p> <p>ここをどう対処するのかと考えることが大切ではないでしょうか。</p> <p>④ 4. 教育力が落ちたとされる原因はいろいろ考えられますが、審議会ではどのように検討されたでしょうか。</p> <p>私は、新自由主義経済のなかで人々のエネルギーがますます会社・企業に吸い取られ、子どもに向けられる部分が少なくなっていることが根本原因だと考えています。</p> <p>家庭の教育力が低下するのは、家庭や地域が壊されてゆく現象の一部ではないでしょうか。</p> <p>すると、学校がこれを補完し、子どもの教育についてもっと多くの役割を分担してほしいと、家庭や地域が期待してきます。</p> <p>ところが学校では、企業や社会からの、学力を引き上げよ、根性のある人間を育てよという上からの要求をこなすことで精一杯で、それでも人間教育をせざるを得ませんから、過労死が出る長時間労働が常態化しているのだと思います。</p>	<p>・当審議会では、これからの小矢部市の学校教育のあり方について、現在の小矢部市教育大綱を推進することが適切と判断しました。</p> <p>その実現と望ましい学校規模を確保することは、主と従で捉えるものではなく、密接な相関関係を為すものであり、当審議会では、望ましい学校規模を中心課題の一つとして、協議・検討を重ねてきたところです。</p>	答申案どおり

21	<p>⑤ 5. これを改善するためには「クラス替えのできる学校が適正規模」だとする前提そのものを検討せねばなりません。 そんなことをしても競争の教育が強まるだけで、いまの教育の現状を変えることには少しも作用しないと私は思います。 それどころか、統廃合をすれば結果として、教員を減らし、子どものバス乗車時間を長くし、地域から学校を遠ざけ、いっそう人間教育を困難にします。 クラス替えをしなくても、いじめが起こらないようにするにはどうすればいいのかの根本を考えなければなりません。 真っ先にやるべきことは、教職員を増やし、子どもと「親代わり」の教職員との接触時間を増やすことです。 東部小の複式学校を心配される向きもあると聞いていますが、石動小学校との学区区分を少し見直せば、それで当面は済むことではありませんか。</p>	<p>・当審議会では、クラス替えのできる学校規模が望ましいと判断しました。 その理由は、P4. P5に記載のとおり、単に「いじめ」解消の手立てとして考えたものではありません。 子ども達の人間性がより豊かに育つためには、クラス替えによって人間関係の固定化を防ぐなど、複数学級による教育環境の設定が望ましいとの判断に至ったものです。 ・校区の分割については、「No.15」の①を参照下さい。</p>	
	<p>⑥ 学校統廃合は、基本的には教育の「合理化」、つまり「効率化」です。企業の利益につながる能力をいかに無駄なく身に付けさせるかが眼目となります。 子どもや親が求めているのは、その根底となる、基本的な生活習慣や、人間的魅力、個性の輝きです。 地方自治では教育の基礎部分・人間教育を優先し、住民に寄り添うことが求められています。</p>		
22	<p>① 「東部小学校と石動小学校への統合」について 答申（案）に「東部小学校は、ここ数年で児童数の減少がさらに進み、1学級当たりの児童数が少なくなると推計され、石動小学校への統合は、早期に実施することが望ましい。」との答申ですが、東部小学校の近隣エリアではアウトレットモールの出店以降、開発・発展が進み新築住宅の着工が目立つようになり、今後大きく伸びる可能性をもった地区です。 統合を早期に実施することなく、東部小学校の存続を望みます。</p>	<p>・東部小学校と石動小学校への統合については、「No.18」の③を参照下さい。</p>	<p>・答申案どおり</p>
23	<p>① 東部小学校域の住人です。 東部小学校は地域と共にあり、顔の見えるつながりになっています。 この事は重要な事かと思えます。 答申（案）で述べられておられる望ましい学校規模には届いておりませんが、当地域は、ここ10数年で戸建、アパートが新築され、今後も人口増が期待され、望ましい学校規模に近づくものと推量されます。 地域と共にあります東部小学校の存続を要望します。</p>	<p>・東部小学校については、今後の人口予測を踏まえ、石動小学校との統合が望ましいとの判断に至りました。 詳細は「No.18」の③を参照下さい。</p>	<p>・答申案どおり</p>
24	<p>① 小学校の存続について -特に東部小の存続について- 1 子無地域の振興発展の中核である東部小学校は、地域の宝であり、その未来を担う子どもたちが、地域の皆様に育てられ、成長できる場所であり、子どもたちが中心となってお年寄りから壮年、若者らの各世代が交流できる活動拠点であり、地域を活性化する、貴重な（人的、物的）施設である。 また、隣接の東部公民館との交流も相まって、いろいろな行事を通して、生徒の皆さんと世代間交流や地域での交流も深まり、より一層地域に密着した「教え」と「育て」を実践しています（20からの「社会に開かれた教育課程」の授業にも、東部小は非常に親和性が高いと思われる）。</p> <p>こうした東部小学校を中心とした、東部公民館も相まった学校教育等の諸活動により、地域の子どもたちが、地域によって温かく育てられ（いわば子どもたちファーストともいえるでしょうか）、心豊かに、人情に厚く、コミュニケーション力も培われる（現に東部小には不登校生は一人もいない）とともに、地域（ふるさと）に誇りと愛着をもった、「根無し草」でない、しっかり地域に根っこをもった一人の人間となり、この地域の将来を担ってくれるものと思います（そうでなければ、地域を出ていくか、地域にあまり関心のない大人になっていく可能性が高く、ただでさえ人口減少となるなか、将来の地域の活力の維持が大変困難になっていき、衰退の一途をたどることになってしまうのではないのでしょうか）。</p>	<p>・東部小学校は、これまで地域の皆さんの理解と協力のもと地域に支えられた学校運営が続けられてきており、その効果はご指摘のとおりと考えます。 しかしながら一方で、児童数はここ数年減少を続け、望ましい1学級当たりの人数を確保できない状態になるものと見込まれています。 このことから、東部小学校を石動小学校に統合することが望ましく、詳細は「No.18」の③を参照下さい。</p>	<p>・答申案どおり</p>

こうしたことは、子どもたちがいわば地域から離れていってしまう（委員の感想にも触れてある。40頁参照）小学校の統合によっては、なかなか達成できるものとは思えません（答申案に、「8. 地域の理解、地域との連携」の項目があります（27頁参照）が、特に小学校の「再編後」においては、記載のこの実現は大変難しいものと思料します。だからこそ、こうして意見を申し述べております）。

やはり、東部小学校なくして子撫地域の子供たちの成長・発展はなく、この地域を支えてくれる子どもたち、そして将来の大人たちが減少していけば、この地域の発展、ひいては小矢部市の発展も毛頭期待できないでしょう。

ですから、ぜひとも東部小学校を存続していただきたい。

さらに、以上のことから、地域住民が利用する「公共施設」（住民の利便性を高めるもの、日常生活に不可欠なものを除けば一定程度我慢はできるもの）と、この地域住民となる（将来の地域を支える、お金では買えない正に地域の宝である、そして百年の大計のもとにある）子どもたちを育てる「小学校」とは、全く質的に異なるものと考えられ、再編統合整理を考える場合も、同じような発想で扱うのではなく、別個に扱われなければならないものと思います。

② 2 確かに、小学校の生徒の数が減れば、生徒が切磋琢磨する面や部活動の面、1クラスだと6年間ずっと一緒である面（委員の感想には、いじめ解消の真の解決策はクラス替えではないとの指摘あり。41頁参照）などでマイナスではないかと考えられる。

しかし、反面一人ひとりに行き届いた教育ができ、また授業等の工夫・仕方で一定の切磋琢磨も可能となること、文化、スポーツの部活動などでは近隣小学校との合同実施も視野に入れることなど、対応策は考えられると思います。

さらに、小学校の統合にあたってのこれまでの基準は、複式学級となるかどうかであったと聞いています。

したがって、この基準はなお意味があるものであり、これを今後とも維持して欲しい。

東部小を存続させれば、東部小の魅力がクローズアップされ、ひいては、校下に、働く若者や夫婦の方々も定着し、また、転入してくることも増えてくるのではないのでしょうか。

③ 3 もちろん、中学校は、小学校と異なり、生徒が（徒歩や一定方向の距離以上は）自転車と通学していませんし、統合されても、そのあたりの支障はないでしょう。

また、統合されれば、互いに切磋琢磨もしやすい年齢となっていますし、体力も部活動に即したものとなっているだろうし、そうしたなかで、生徒がそれぞれの個性を伸ばしていけばよいと思う。

したがって、中学校は統合していてもよいと考えます。

④ 4 答申案は、結論を中心に記載されており、特に4. 望ましい学校再編（2）望ましい学校再編の基本的方向（18頁）という本答申案で最も基本となる、重要な項目については、他の意見を附記するだけで、なぜ再編を進めるのが望ましいのか、どうしてそのような結論になるのか、また、その過程や理由付けも、述べられていないと思います。

ここそが、今回の答申において一番丁寧に記載して、市民の皆様へ説明し、理解をいただく必要があると思うのです。いかがでしょうか。

さらに、4. 望ましい学校再編（1）望ましい学校再編を検討する上での観点として、①から⑤まで掲げられているが、生徒たちにどういった教育をしていくのか、していけるのかというような教育内容や教育の質の面（地域で子どもたちを育てること等を含む）からの観点がなく、教育環境からの観点だけになっているように思われるが、再編統合を考えるうえで、果たしてそれでよいのでしょうか。

・当審議会では、人間関係の固定化などを防ぐためには、クラス替えができる規模が望ましいとする一方で、児童一人一人に教師の目が行き届くよう、大規模化は避けるべきとの認識に立ち、小学校では全体で18学級数以下が望ましいとしたところです。

・複式学級は、学年の異なる児童生徒が1つの教室で同時に授業を受けることから、当然、避けるべきものと考えますが、更に、当審議会では、P5に記載のとおり、グループ学習等の多様な学習形態を確保するために、1学級当たりの望ましい人数を20～30人としたところです。

・当審議会では、中学校についても、望ましい学級数について考察を重ねるとともに、小矢部市の地理的特性や通学距離なども総合的に勘案し、蟹谷中学校と津沢中学校との統合が望ましいとしたところです。

・当審議会における協議・検討の過程においては、小規模校のメリットに着目する意見とデメリットに着目する意見など、様々な意見が交わされました。

その多くは、文科省の手引きに示されている内容や教職員との意見交換会での意見と重なるものでした。

協議の結果として、当審議会では、多くの委員において、望ましい学校規模を実現することが適切との判断がなされ、今回の答申案に至ったものです。

なお、小学校については、「現状維持が適切」とする立場からの意見が複数出されるなど、委員相互に意見の相違が見られたことから、当該意見の内容を「付記」により書き記したものです。

当審議会の協議は、決して結論ありきで進められたものではなく、このように自由かつ多様な意見交換を経て結論が出されたものです。

24	<p>また、各地区や学校とで意見交換会がなされ、(2)望ましい学校再編についての基本的方向等について、いろいろな意見、そして、なるほどと思うような意見もあったようにも思います。</p> <p>別添資料に、まとめられています(まとめ方がややどうかといったところもあるが、総じてよくやられている)が、ただ記載されただけのようにも見えます。</p> <p>審議会として、それぞれの意見をどのように活用されたのか、また、どうして活用できなかったのかなど、一部の代表的な意見についてだけでもよいですから、真正面から受け止めて、堂々と審議会の立場を明確にされた方がよいのではないのでしょうか(付帯意見が一部記載されているに留まります)。</p> <p>それでこそ、審議会が市民の皆様からも丁寧にご意見を「聴いて」判断された、誠実な対応をされたということになるのではないのでしょうか。</p> <p>そうでなければ、ただ意見を「聞いた」だけではないかと市民から誤解されてしまうことにもなりかねません。(なお、18頁の(3)以降の具体的な再編案や実施時期については、いわば各論であり、<理由>も十分附記されています。)</p>		
⑤	<p>蛇足ですが、地域との審議会との意見交換がありました。回答等はほぼ教委事務局に終始した(副会長は説明を少しやられた)ように見え、各界各層の代表者である会長はじめ委員の皆さんの思いがあまり伝わらなかったように感じられ、期待していただけに、残念なことでありました。(これと対照的に、6.市内小中学校教職員との意見交換会の内容については、委員の感想も十分記載されています。)</p>	<p>・地区意見交換会においては、現在の教育の現状やアンケートのやり方についての質問などが多く出され、事務局が回答する場面が多かったケースがありました。</p> <p>一方、これからの学校教育のあり方や望ましい学校規模などについて、参加者相互の議論の深まりが感じられた意見交換会もあり、今回の地区意見交換会は貴重な機会であったと認識しています。</p>	
⑥	<p>委員の皆様には、本答申案は、小矢部市の未来を担う子どもたちについての極めて重要な問題についてでありますので、どうかよろしくお願い申し上げます。</p>		
25	<p>① 石動小学校と東部小学校の統合を検討するにあたっては、生徒の通学距離の負担を軽減するために、学区の見直しも含めて検討をお願いしたい。</p> <p>東部校区において、石動小学校よりも大谷小学校への通学距離が近い場合もあると思われます。</p> <p>② また、1学級当たりの望ましい児童生徒数については、教師の負担を考慮して20人～30人とのことですが、仮に20人学級となった場合は、男10人以下、女10人以下となることが予想され、友達が限定されてしまい、一人ぼっちとなる生徒が増えると思われます。</p> <p>最低、1学級30人以上は必要ではないのでしょうか。</p> <p>1学級あたりの生徒数を制限することが、教師の負担を減らし、きめ細やかな指導を行うことが目的であれば、1学級あたりの教師数を増やすことで事足りるのではないのでしょうか。</p> <p>担任、副担任制度がしっかりと成り立つように仕組み作り(仕事分担)を議論した方がよいのではないのでしょうか。</p> <p>できるだけ、教師目線ではなく生徒目線で議論をしていただきたいと思います。</p> <p>③ 最後に、中学校の部活動について、より多くの競技を選択できるように、学校区を超えての部活動の参加等、できるだけ早く改革していただくことを願います。</p>	<p>・校区の分割については、「No.15」の①を参照下さい。</p> <p>・1学級当たりの望ましい児童生徒数については、ご指摘のとおり「20人から30人程度」としました。</p> <p>その理由として、P5に記載のとおり、「児童一人一人に教師の目が行き届き、きめ細かな指導が行われる」ことが大切であり、この観点から30人程度までが適切との判断に至ったものです。</p> <p>2月に実施した教職員との意見交換会では、1学級当たりの人数が30人以下となること、きめ細かな授業・生徒指導等の多くの面で望ましいとの声が多くありました。</p> <p>一方、1学級に20人程度の児童生徒数があることで、「グループ学習等による授業が成り立つ」ことなどから、「少なくとも20人程度の規模が必要」としたものです。</p> <p>なお、ご提案の複数教員による授業は、すでに英語、数学等の一部の教科で行われている場合もありますが、全ての授業を担当・副担任で実施することは、それに必要な教員数を確保することが不可欠です。</p> <p>現行の国・県の基準では、1学級の児童生徒数が小学1～3年生と中学1年生は35人、その他は40人として算出した学級数に応じて教員の配置人数が決定されることとなっています。</p> <p>このため、全ての教科での複数担任制は現実的には困難と考えます。</p> <p>・中学校部活動については、「No.11」を参照下さい。</p>	<p>・答申案どおり</p>

26 ①	<p>津沢小・中は、このまま合併しないで残してほしい。</p> <p>あまりに広い区間で一緒になると愛着や地元という感じがしませんが、大人数になりすぎると目が届かなくなり、安心して行かせられません。</p>	<p>・津沢小学校・中学校の統合については、「No.13」の②を参照下さい。</p> <p>・再編後の学校運営については、P27に記載のとおり、「地域の文化・伝統・人材を活かした学習活動を進めると共に、地域行事や公民館事業への児童生徒の参加により、学校と地域との相互の連携・協力が深まり、地域に支えられ、地域と一体となった学校運営に努めることが必要」としています。</p> <p>なお、答申案は、今回の再編によって、P5に示す望ましい学校規模を実現しようとするものであり、一方で大規模校化を避けるものとなっています。</p>	・答申案どおり
27 ①	<p>津沢小、中学校を卒業した者です。素直に感じた意見を書かせていただきます。</p> <p>〈生徒数、教員数について〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単級規模になることは回避すべきだが、極力少人数がいいと感じている。 ・多様な意見が得られる環境は、一人一人の質が高められた状態の方がより効果的なのではないだろうか。 ・人間関係の固定化は少人数の方が顕著なのかもしれないが、大人数でも起こりうることであり、大人数では仲のいい人以外との関わりの数は多いかもしれないが関わりの深まりがあまり期待できないのではないか。 ・少人数の場合、一人一人の活動機会が多いため、主体性、責任感のある児童、生徒が育ち、これにより学校行事への活気も高められる。(大人数では一人一人の主体性が薄れるのではないか) ・クラス替えによるいじめの解消は、少なくとも市内全校の統合校規模でないと難しい。(小、中とメンバーが同じであるため、クラスが違って距離感が近い) ・少人数は教員が生徒一人一人のことを見てくれているため、安心感と信頼感がある。 ・少人数であり教員と生徒の距離が近い状況である方が、生徒会、委員会活動において生徒独自の発想による活動の実現が容易だと思われる。 ・学校行事、部活動において、プロジェクトの成功を目的とするならば、活動の安定をはかれる大人数の方が容易だが、児童生徒の成長を目的とする場合、児童生徒一人一人の可能限界もしくはそれを超えるものが要求される少人数の方が容易である。 <p>②〈地域との関わりについて〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民館祭りははじめとする地域行事への参加(吹奏楽演奏や児童による音楽発表等)について、統合によって機会が減るのではないか。(各地区の開催時期が被る、児童生徒の負担) ・より小さい区分の地域との関わりや認識が薄れるのではないか。(津沢での活動における小学校の町探検、中学校の武者絵製作等の実施は統合をするほどに困難にならないか) <p>以上、一意見として目を通していただければと思います。</p>	<p>・当審議会では、小規模校のメリットについても考察し、ご指摘のような効果についても協議・検討したところです。</p> <p>一方で、単級によるデメリットの克服のほうが優先すべき課題であるとの認識に立ち、今回の答申に至ったものです。</p> <p>・学校と地域との関わりについては、前述「No.26」を参照下さい。</p>	・答申案どおり
28 ①	<p>小矢部市の未来を考える上で、重要な問題である小中学校の統廃合について、ご検討頂き誠にありがとうございます。審議会の皆様のご尽力に感謝致します。</p> <p>しかしながら、どうしても納得できない点がございます。</p> <p>それは、審議会委員名簿を拝見したところ、大半の委員が高齢者であることです。</p> <p>学校教育を受ける未来の子供達のことを考えるに当たり、現在子育てをしている世代や、これから子育てをするであろう若年世代の委員が殆ど含まれていないことは大きな問題であり、審議組織としての欠陥だと思えます。</p> <p>高齢の学識経験者や各種団体の長だけが集まって作り上げたこの答申案では、説得力はありません。</p> <p>なぜなら、子育てが終了した高齢者だけで考える問題ではないからです。</p>	<p>・小矢部市小中学校統廃合審議会の組織は、市条例に基づき、委員22人以内で組織するとされます。</p> <p>その構成は、①市教育委員会委員4人、②公共的団体等を代表する者12人、③学識経験がある者4人、④公募による者2人とされています。</p> <p>今回は公募委員に応募された方が1人のみであったため、21人で構成されました。</p> <p>なお、公共的団体の代表者の中には、PTAの代表者が2人、青年会議所の代表者が1人、校長会から2人の現職校長が参加されています。</p> <p>当審議会では、広く市民の声を聞くため、市民アンケートを実施しましたが、20代30代の回答率は、他の年代よりも低く、また、全保護者に開催案内文書を配布し、すべての小中学校毎に保護者意見交換会を開催しましたが、参加者は少なく、審議会委員もとても残念に感じたのが実態です。</p>	・答申案どおり

28	<p>アンケートを実施したり、学校毎に説明会を開くなど、一定の努力は認めますが、全くもって不十分と言わざるを得ません。</p> <p>この小中学校統廃合の問題に対し、未来志向で真剣に取り組むためには、20代30代を中心とした新たな審議会を立ち上げて、再度話し合うべきだと思います。</p> <p>このままでは小矢部市の将来に期待は持てません。小矢部市で子供を育てたいとも思えません。ご検討のほど、よろしくお願い致します。</p>	<p>若い方も含め、幅広い年代の方々に、学校のあり方について関心をもっていただくにはどうすればいいか、市民が共有すべき大きな課題と受け止めているところ です。</p>
----	--	---